

倉吉市観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 倉吉市

事 業 名 : 温泉配湯事業

策 定 日 : 令和 3 年 3 月

改 訂 日 : 令和 8 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 8 年度 ～ 令和 17 年度

1. 事業概要

(1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	非 適	事 業 開 始 年 度	平成17年度
事 業 の 種 類	温泉配湯事業	施 設 名	関金温泉配湯施設
職 員 数	3 人	兼務	
事 業 の 内 容	温泉配湯施設の維持管理、使用料の徴収		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民間委託	一部委託(温泉送湯ポンプ設備維持管理業務)	
	イ 指定管理者制度		
	ウ PPP・PFI		

(2) 料 金 形 態

料金の概要・考え方	使用料：1分間につき1リットルの配湯能力を1口とし、許可された配湯能力に応じた額とするもの。 共同浴場施設 1口につき 月額3,670円、医療施設 1口につき 月額3,670円 介護施設 1口につき 月額3,670円、宿泊施設 1口につき 月額4,190円 観光施設 1口につき 月額4,190円、厚生施設 1口につき 月額4,190円 その他の施設 市長が別に定める額	
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	平成17年10月1日	

(3) 現在の経営状況

年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	R4	10施設 147口	R5	10施設 147口	R6	9施設 127口
収益的収支比率 ※過去3年度分を記載	R4	171%	R5	148%	R6	150%
経費回収率 ※過去3年度分を記載	R4	171%	R5	148%	R6	150%
他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	R4	-	R5	-	R6	-
有形固定資産減価償却率 ※過去3年度分を記載	R4	-	R5	-	R6	-
企業債残高対料金収入比率 ※過去3年度分を記載	R4	-	R5	-	R6	-

【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】

収支比率、経費回収率が減少しているものの良好な経営を保っている。

2. 将来の事業環境

(1) 入浴客数の見通し

令和元年度の後半に「グリーンスコーレせきがね」、「美草苑」が閉館し約20,000人減少、その後令和6年度に「湯楽里」の閉館により、更に約17,000人減少したが、令和7年度に「HOTEL星取テラスせきがね」が開設され今後の増客が見込まれる。

【参考】

・入浴客数の推移

令和4年度 103,658人
令和5年度 104,449人
令和6年度 89,397人

(2) 使用料収入の見通し

温泉配湯使用料は、入浴客数に直接左右されるものではなく、配湯先施設数とその配湯能力によるもので、令和元年度の後半に「グリーンスコーレせきがね」、「美草苑」が閉館となったため、収入が減少した。令和6年度に「湯楽里」の閉館により、年間6,700千円の収入が5,700千円に減少したが、令和7年度に「HOTEL星取テラスせきがね」が開設され、2,000千円の増となるもの。

【参考】

・配湯先施設数と配湯能力値

令和5年度 10施設 147ℓ/分
令和6年度 9施設 127ℓ/分
令和7年度 10施設 167ℓ/分

(3) 施設の見通し

施設、設備等の老朽化はかなり進んでいるが、施設そのものの建替えは当面行なわない。配湯ポンプを計画的に更新することにより、適正な維持管理を図るもの。

【参考】

・ポンプ台数

配湯ポンプ・・・2台
揚湯ポンプ・・・8台(揚水用1台含)
中継ポンプ・・・2台

(4) 組織の見通し

適正な施設の維持管理を図るうえで、専門職員の育成が必要。限られた職員の中では、今後外部委託についても検討して行く必要がある。

3. 経営の基本方針

温泉の利用者には福祉施設も多く、収支が安定している中では使用料の見直しは行なわない。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	施設・設備等の適正管理と適切な更新 温泉の安定供給
-----	------------------------------

- ・施設の建替え等の大規模投資は行なわない。
- ・設備の安全かつ良好な運転維持のため、管理業務を一部民間に委託する。
- ・揚水、排水ポンプ等の機械の適正な更新を図る。

② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	現状維持
-----	------

温泉の利用者には福祉施設も多く、収支が安定している中では使用料の見直しは行なわない。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

経費の中で大半を占めるのが、機械・設備運転のための電気代、修繕料。
そのほかは消耗品費、温泉設備の維持管理委託料、レジオネラ属菌検査手数料。

(3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民 間 活 用	
投 資 の 適 正 化	ポンプ等更新計画に沿って実施
そ の 他 の 取 組	新たな源泉確保に向けての取り組み

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料 金	現状維持
稼働率・利用者数	—
企 業 債	—
繰 入 金	
資産の有効活用等による 収入増加の取組	—
そ の 他 の 取 組	—

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委 託 料	継続
管 理 運 営 費	—
職 員 給 与 費	—
そ の 他 の 取 組	—

5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供する サービス自体の必要性	日本を代表するラジウム温泉の温泉地であり、観光資源でもある関金温泉を継続するため。
公営企業として実施する 必 要 性	温泉を必要とする施設に対して、安心、安全及び安価で供給するため。

6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、 改定等に関する事項	収 入：平成30年度12施設に配湯し8,800千円の収入があったが、その後3施設がなくなり、令和6年度に5,700千円となるものの運営に支障はなかった。現在10施設に配湯し7,700千円の収入で当面持続する見込みである。 支 出：計画的にポンプの更新を行っていく。高額のパンプの購入、源泉の浚渫等の大きな工事を行う際には余剰金を積み立てた基金により対応するもの。
-------------------------	---

